

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,954 千円	3,027 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	施設一般指導事業実施件数	151 件	維持	161 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）				大変順調		
					順調		
	（最終目標と最終年度）				やや遅れ		
					遅れ		
					順調		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関わる保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することが出来ました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
総合療育センターは、再整備される予定です。（平成30年度目標） 今後は、再整備後の体制についても検討を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	小池学園(児童部)居住環境改善事業						掲載ページ
							181
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		12,139 千円	4,200 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	重度の障害のある子どもへの支援の強化ため、現在の小池学園児童部の居住環境を改善します。(「指定管理者」が運営)			活動実績	小池学園(児童部)の居住環境の改善について検討	
活動計画	法制度・法令等の情報収集・分析 基本構想の検討						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	改善方法の検討	20%	前進	30%	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	居住環境改善のためには、その手法を検討する必要があるため、改善方法の検討の進捗率を活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)			%			
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小池学園(児童部)の居住環境の改善に向けた方法を検討するとともに、再整備のための土地測量等基礎調査を行いました。 小池学園(児童部)の居住環境を改善することは、障害のある子どもへの支援で有効性の高いものであると考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	再整備にあたっては、あらゆる制度の活用を検討することで市のコストの負担軽減を図りたいと考えています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後の居住環境の改善については、関係機関と協議を進めていくとともに、再整備の基本計画を策定します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	ショートステイ事業						掲載ページ
							178
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		210,528 千円	226,261 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	介護者の病気や冠婚葬祭などにより、一時的に介護等支援が受けられなくなった在宅の障害児(者)を、短期間、施設で預かり(宿泊型・日帰り型)必要な介護等を行います。今後、その充実を図り、重度の障害のある子どもの受け入れを含め、支援を強化します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	短期入所事業については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	短期入所の月延利用人数	74 人/月	274 人/月	317 人/月	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	短期入所は、保護者の身体的・精神的負担の軽減を図るためのレスパイト(一時的休息)としても必要であり、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成26年度 318人/月			115.7 %			
	日中一時支援事業(日帰りショート)の利用者数	176 人/月	176 人/月	183 人/月	順調 やや遅れ	順調	
当該事業における利用者数の増加は、障害者(児)の日中における活動の場の確保及び介護負担の軽減につながります。 (最終目標と最終年度)平成26年度 182人/月	104.0 %						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保護者の身体的、精神的負担の軽減を図るために不可欠な支援であると考えており、利用者数等も着実に増加しています。今後も、サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	短期入所については、障害者総合支援法に基づく法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。日帰りショートについても、同法に基づく地域生活支援事業であり、適切な支援が行われるよう障害者(児)に対してのノウハウを有する事業者へ委託をしています。

## 【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること

保護者のレスパイトや就労支援の充実に必要な支援であり、今後も継続して事業を行います。  
短期入所については、法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施していきます。  
また、平成25年度4月より、障害福祉サービスの対象者に難病患者等が追加になったことから、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定や、サービス提供事業者への助言・指導を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	北九州市障害者基幹相談支援センターの運営(旧:北九州市障害者地域生活支援センター)						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		118,818 千円	122,194 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」(ウェルとばたに設置)(平成24年10月1日からは「障害者基幹相談支援センター」以下同じ。)運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。					
活動計画	障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。						活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	障害者地域生活支援センターの相談件数	15,294 件	増加	21,112 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが障害児(者)やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と最終年度)平成29年度 43,669件						
	障害者地域生活支援センターの設置数	1 箇所	1 箇所	1 箇所	順調 やや遅れ	順調	
障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。 (最終目標と最終年度)			100.0 %	遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	広報活動の促進や、各種研修会を開催することで「障害者基幹相談支援センター」の知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。 (相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、より効率的な相談支援体制の構築を図るため、平成24年10月1日より「障害者基幹相談支援センター」として再整備実施)
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害児(者)及びその家族に対する相談支援は、基本的には職員が直接行うものですが、業務の簡素化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。しかし、障害者等からの相談内容が専門化・複雑化する傾向があるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成24年10月1日に「北九州市障害者基幹相談支援センター」を設置し、相談窓口の一元化を図りました。平成25年度以降も引き続き、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようになります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	ホームヘルプサービス事業						掲載ページ
							179
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,805,360 千円	1,652,556 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(以下、「障害者総合支援法」)に基づく「障害福祉サービス」の一つで、ホームヘルパーの派遣を希望する在宅の障害児(者)に対し、支給時間数(利用できる時間数)を決定し、これに基づき、障害児(者)は事業者から身体介護や家事援助等のサービス提供を受けます。そのサービスに要した費用を市が負担します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	法定給付のため、法制度の仕組み等により給付等事業を行います。なお、国において制度改革等の動きがあることから、国の動向を見ながら事業を継続します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	訪問系サービスの月利用時間数	35,337 時間	36,863 時間	40,379 時間	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)の月延利用時間数の実績です。居宅介護事業等は、障害者が地域等で安定的な生活を営むために必要なサービスであることから、利用状況を把握していくことが重要と考えています。 (最終目標と最終年度)平成26年度 41,051時間/月			109.5 %		
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ	大変順調
				遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  障害児(者)への必要なサービスは順調に提供されています。今後も、サービス提供体制の充実や良質なサービス提供の実現のため、事業者への助言や指導等に努めるとともに、利用者への適切なサービス利用の決定を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  法定給付であり、自治体が独自でその内容を決定できるものではありません。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>障害児(者)が住み慣れた自宅等地域で生活していく上で不可欠な支援であるため、今後も継続して事業を行います。法定給付のため、その内容については国の制度改革等の動向を見ながら実施していきます。</p> <p>また、平成25年度4月より、障害福祉サービスの対象者に難病患者等が追加になったことから、今後も利用者が必要とするサービスが適切に受けられるよう、適切なサービス利用の決定やサービス提供事業者への助言・指導を行います。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	日常生活用具給付等事業						掲載ページ
							182
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		265,211 千円	263,764 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	自力で日常生活を営むことに著しく支障のある在宅重度障害児者に対し、ストマ用器具等の日常生活用具を給付又は貸与することで日常生活の便宜を図ります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	予算の範囲内でより多くの方に本事業を利用いただくため、PR活動など積極的な取り組みを行い、障害者のニーズに即した事業内容となるよう努めます。また、障害者のニーズに基づき、より要望や必要性の高い福祉用具の追加を検討します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	日常生活用具の年間支給件数				大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「支給件数」が、障害者の日常(在宅)生活における利便性の向上を図る判断基準となるため、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)平成26年度 11,790件/年	11,309 件/年	11,331 件/年	11,686 件/年		
				103.1 %	順調	順調
(最終目標と最終年度)				やや遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	支給決定件数(事業利用者数)は増加しており、「活動の状況」は順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は障害児・者の介護に精通している福祉用具事業者に委託し給付等を行うものであり、経済性・効率性は高いと考えています。また、給付決定に当たっては、真に必要な用具を給付するという基本原則を遵守した事業運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後とも、機会あるごとに障害者ニーズを把握し、要望や必要性の高い福祉用具を新たに種目に追加するなど、事業の充実を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	補装具費の支給						掲載ページ
							182
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		277,583 千円	290,766 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	身体障害者の日常生活や社会生活の向上を図るために、失われた身体機能や損傷のある身体機能を補うための用具(補装具)の交付及び修理を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	予算の範囲内でより多くの方に本事業を利用いただくため、PR活動など積極的な取り組みを行い、障害者のニーズに即した事業内容となるよう努めます。また、障害者のニーズを把握し、補装具の適正支給に努めます。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	補装具の年間支給件数	3,379 件 / 年	維持	3,315 件 / 年	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「支給件数」が、障害者の日常(在宅)生活における利便性の向上を図る判断基準となるため、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)			%		
						順調
(最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	支給決定件数(事業利用者数)は現状維持で推移しており、「活動の状況」は順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は障害児・者の介護に精通している福祉用具事業者と契約し給付・修理を行うものであり、経済性・効率性は高いと考えています。補装具給付に当たっては、専門機関である身体障害者更生相談所(市立障害福祉センター)が判定し、身体状況に適した用具を給付しており、また、費用についても、障害者総合支援法において各品ごとの単価が決められています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後とも、機会あるごとに障害者ニーズを把握し、補装具の適正支出に努めます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	移動支援事業						掲載ページ
							182
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		252,917 千円	257,627 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者(児)が公的機関などの外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をする時に、ヘルパーを派遣して移動の支援を行うことで、移動手段を確保し、障害者(児)の自立や社会参加の促進を図ります。			活動実績 H23年10月から視覚障害者の移動支援が法定サービスの「同行援護」に位置づけられた。 (参考) H24年度実績 移動支援 87,374時間/年 同行援護 19,662時間/年 計 107,036時間/年		
活動計画	屋外での移動に困難のある重度障害者(児)が、公的機関などの外出及び余暇活動等の社会参加のための外出をする際に、ヘルパーを派遣して移動の支援を行う。この事業は、障害福祉サービス(居宅介護)事業者へ委託して実施していますが、事業者の新規参入を促すとともに、市民に対し事業の啓発に努め、障害者(児)の自立や社会参加の促進を図ります。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	障害者の移動支援の年間延べ利用時間	94,322 時間/年	86,290 時間/年	107,036 時間/年	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	移動支援事業の利用者のニーズに応えるため、平成19年度に利用要件を緩和しました。これに伴い要件緩和以降、大幅に利用者数、利用時間が増加しました。今後も障害者が利用しやすいサービスの提供を行っていきます。 (最終目標と最終年度)平成26年度 111,324時間						124.0 %
	(最終目標と最終年度)				順調	大変順調	
				やや遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新規参入事業所もあり、また、事業周知にも努めた結果、その実績は順調に伸びている。そのため、「活動の状況」は大変順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	移動支援事業は、障害福祉サービス事業者に委託し行っています。また、報酬単価についても、障害福祉サービスに準じて決定しているため、経済性・効率性は高いと考えています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること	
本事業は障害者の社会参加の促進を図っていくうえで重要な事業であると考えており、今後とも、利用者のニーズに応え、事業充実を図ります。	



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	障害児福祉手当						掲載ページ
							88
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		101,423 千円	102,996 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	日常生活において、常時、特別な介護を必要とする20歳未満の在宅の重度の障害のある子どもに対し、その障害によって生じる特別な負担の軽減を図ることを目的として手当を支給します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	全国一律に支給基準が定められています。適正な事務の執行を行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	支給者数	582名	維持	584名	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	日常生活において、常時、特別な介護を必要とする在宅の20歳未満の子どもに対し、その障害によって生じる特別な負担の軽減を図ることを目的として手当を支給します。 (最終目標と最終年度)			%		
					やや遅れ	順調
(最終目標と最終年度)				遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	特別児童扶養手当等の支給に関する法律・施行令に基づき支給しています。障害のある子どものいる世帯の負担軽減に寄与しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であるため、支給要件、手当額等は全国一律に定められています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本事業は、障害のある子どものいる世帯の負担軽減に寄与する法定給付であるため、法律に基づき継続して実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別児童扶養手当						掲載ページ
							88
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		323 千円	373 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	身体障害・知的障害・精神障害の状態(重度・中度)にある20歳未満の障害のある児童を扶養している父母等に手当を支給します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	全国一律に支給基準が定められています。適正な事務の執行を行います。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	支給者数	1,324 名	維持	1,350 名	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	身体障害・知的障害・精神障害の状態(重度・中度)にある20歳未満の児童を扶養している父母等に手当を支給します。 (最終目標と最終年度)			%			
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)			%	やや遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	特別児童扶養手当等の支給に関する法律・施行令に基づき支給しています。障害のある子どもがいる世帯の負担軽減に寄与しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定給付であるため、支給要件、手当額等は全国一律に定められています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本事業は、障害のある子どもがいる世帯の負担軽減に寄与する法定給付であるため、法律に基づき継続して実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	重度障害者医療費支給制度						掲載ページ
							88
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		3,824,487 千円	3,830,457 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	重度の障害のある子どもの健康の保持及び福祉の増進を図るため、保険診療による医療費の自己負担額を助成します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	現行制度を継続して実施します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	重度障害者医療の受給者数	23,191 人	23,413 人	23,273 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	重度障害者医療の受給者数が増えることにより、重度の障害のある子どもを育てる家庭で、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。 (最終目標と最終年度)			99.4 %			
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	受給者数はほぼ横ばいであり、重度の障害のある子どもを育てる家庭において、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	制度上、代替手段等によるコスト削減は考えられません。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
重度の障害のある子どもの健康の保持と健やかな育成を図るため、現行制度を継続して実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	重度障害者タクシー乗車運賃助成事業						掲載ページ
							88
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	保健福祉局
		84,299 千円	85,522 千円	施策名	子育ての悩みや不安への対応	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	在宅の重度障害児(者)の社会参加の促進を図るため、タクシーの乗車運賃の一部を助成し、重度障害児(者)の外出を支援します。			活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	今後も制度の適正利用の広報を行うとともに、必要に応じて個別の指導を行います。また、市政だよりやホームページへの掲載により助成制度の周知も努めます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	重度障害者タクシー乗車運賃助成者数	4,709 人	増加	4,755 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「助成者数」の増加が、利用者の活動・外出を支える満足度の高いサービスであることの判断基準となるため、成果指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)			%			
	(最終目標と最終年度)					順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	当事業は、公共交通機関の利用が困難な重度障害児(者)の移動を確保するものであり、障害者の社会参加を実現する有効な事業と考えます。また、利用実績は前年度より増加しており、「活動の状況」は順調と判断しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	当事業は、対象者に利用券を交付し、月4回タクシーを利用した際の初乗り運賃額を助成するものであるが、利用券本体に利用月を印刷するなど、適正利用のための改善を行っています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後とも、市政だよりやホームページへの掲載により、助成制度やその適正利用の周知を図ります。